令和5・6年度 第4回高崎市公民館運営審議会 会議録

開催日時 令和6年3月6日(水) 午後1時30分から3時5分

開催場所 高崎市中央公民館 集会ホール

議題 令和5年度高崎市公民館事業実績について
令和3・4年度意見具申への取り組み状況について
アンケート調査の結果について
専門委員会の設置について

公開・非公開区分 公開

出席委員 (14人)

原徳応委員 ・ 串田昭光委員 ・ 三澤憲一委員 ・ 小屋美香委員
内田祥子委員 ・ 青柳隆委員 ・ 櫻井登委員 ・ 小見勝栄委員
植原孝行委員 ・ 山口堅二委員 ・ 秋山美和子委員 ・ 品田佳江委員
井澤千代美委員 ・ 岡部敬子委員

欠席委員 (6人)

前島 朗委員 ・ 星野雅代委員 ・ 小高広大委員 ・ 原田和之委員
丸茂ひろみ委員 ・ 上條ちづ子委員

成立 高崎市公民館運営審議会規則 第4条第2項による

事務局出席者

山口順子中央公民館長・川嶋昭人公民館担当部長・齋藤崇夫教育担当係長・
中村亮一庶務担当係長・錦部光樹次長・江積利雄次長千保木優次長・外處浩
則次長・大村政彦次長・平石貴文次長・伊藤俊一郎次長・武政文隆次長・貫
井賀津夫次長・木村智美主査・菅野典子行政嘱託

傍聴定員 5人

傍聴者数 1人

所管部課名 教育部高崎市中央公民館

令和5・6年度 第4回高崎市公民館運営審議会 議事録

議事

1 令和5年度高崎市公民館事業実績について

会長： それでは議事に入らせていただきます。

令和5年度高崎市公民館事業実績について、事務局より説明をお願いします。

事務局： 「令和5年度高崎市公民館事業実績」をご覧ください。こちらは今年度の高崎市の公民館事業について、テーマごとに掲載した資料となります。12月末時点で各館の情報を集約し掲載しております。こちらで事業実績の報告をさせていただきます。時間の都合上、全体の傾向や意見具申に関わるもの、新規の事業などを中心にご説明させていただきます。表紙を1枚おめくりいただくと目次がございます。こちらの各テーマについて事業の概要が記載されております。

まず1ページをご覧ください。中央公民館の事業について説明させていただきます。

新規の講座といたしまして、ライフアップ推進事業の中で「みんなでイベントを考え、作り、やってみよう」という、夏休みに、中学生が地区公民館の事業の企画運営を行う講座。実際には東公民館で小学生向けに実施した脱出ゲームを企画・運営する講座を初めて開催しました。また、今年度からキャリアデザイン支援事業の中で「おうちで公民館動画配信」ということで、以前、コロナ禍の休館時にいくつかの動画を作成したことはあったのですが、改めて、講座動画を作成し、市のYoutubeチャンネルで配信する事業に取り組みははじめました。現在、編集集中で今月中には3本ほど講座動画を配信する予定です。

2ページをご覧ください。「図書ボランティア活動支援事業」は、図書ボランティア活動をしている方を対象に図書ボランティアの活動内容のスキルアップのために今年度も継続して講座を行っており、紙皿シアターや腹話術など読み聞かせに活用できる講座を新たに実施しました。「なやみごと相談事業」につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もなくなり、通年をとおして実施しております。

なお、中央公民館の講座では、今年度も委員の皆さまにご協力いただいているものがございまして、「孫育て講座」では小屋委員、内田委員、「みんなでイベントを考え、作り、やってみよう」「おうちで公民館動画配信」では小高委員、「観光ボランティアガイド入門講座」では三澤委員、「図書室づくり講座」では秋山

委員に講師を務めていただいております。改めて感謝申し上げます。中央公民館の事業の説明は以上となります。

続いて、職員の研修体制の充実について4ページをご覧ください。「職員研修」については、地区公民館の館長、主事が参加をした研修会等を掲載しております。今年度は市の公民館研修集会が県の西部ブロックの研究集会と兼ねての開催ということで、西部ブロック、また、それ以外の県内の公民館関係者にも多数参加していただき、開催することができました。主事の研修といたしまして、意欲のある公民館主事が自主的に課題を設定し研究するという「公民館課題研究会」という研修を毎年行っており、今年度は4名の職員が参加し、研究活動を行いました。別紙で「令和5年度公民館課題研究会報告書」をお配りしておりますのでご覧ください。今年度の研究テーマは「SNSを活用した若年層への発信と地域人材育成」ということで、Instagramで公民館の情報発信を地域人材と協力して行うというもので、実際にInstagramのアカウントを運用し、検証を行いました。来年度以降、実際の公民館活動で取り組んでいく予定となっております。課題研究会の報告書につきましては、後程、ぜひご一読ください。

続きまして、地区公民館の事業につきまして、説明をさせていただきます。5ページをご覧ください。12月末現在の集計で、44館で1,033講座がおこなわれております。コロナ前は1,100前後の講座数で推移しておりましたので、講座数自体はだいぶ回復してまいりました。「ライフアップ推進事業」は467講座、「キャリアデザイン支援事業」は388講座が開催されております。「地域づくり支援・ボランティア養成事業」は65講座で、こちらの事業は、他の事業と比べて地域との連携で行う講座が多く、コロナの影響を引き続き受けております。

6ページ以降は、実施した事業を様々なテーマごとにまとめたものです。こちらの資料は12月末現在の状況です。そのため、1～3月の事業については事業名の後ろに「予定」が入っております。また、複数の観点を含む事業が多いため、重複して記載しているものが多くございます。また、各館のすべての事業が掲載されているわけではなく、連携事業や特色のある事業を掲載しておりますので、すべての事業の一覧につきましては、毎年度作成しております「高崎市の公民館」の冊子に掲載されますので、来年度に配布させていただきます。

事業の中で新しいものを中心にいくつかご紹介させていただきます。学童クラブとの連携として8ページの金古南足門公民館の「金古南足門桜フェスティバル」は昨年度から新たに始めた事業で、桜の時期にカフェや講座、展示などを組み合わせた事業を行うことで公民館へ来館するきっかけを作るものです。地域住民と公民館が実行委員会を組織し、こちらに記載のある学童をはじめ、地域全体で協力して開催する仕組みづくりに取り組んでいます。

続きまして、中学・高校・専門学校・大学等との連携について8ページをご覧

ください。東公民館「脱出ゲーム」については、先ほどご紹介した中央公民館の講座の結果として中学生の企画・運営で行われた事業です。また、北部公民館、六郷公民館をはじめとした複数の公民館で「安中総合学園高校の生徒が教える」事業として、ファーム部の活動の一環で高校の生徒が寄せ植えなどを教える教室を実施しています。

9 ページの久留馬公民館「魅力発信 お祭り会場で映え写真を撮ろう」では、高崎経済大学の学生と協力し、地域の夏祭り会場で写真を撮影して、Instagramなどで紹介する事業を行いました。寺尾公民館の「上毛かるたをもう一度」では、地域のかるた活動の復活のため、農大二校の教頭先生を講師とし、競技かるた部員の協力で上毛かるたの講座を行いました。その結果、育成会のかるた活動の活発化につながりました。また、寺尾公民館では寺尾中学校との連携で「文化祭公開リハーサル」を公民館で行ったり、中学生が地域を巡る「寺尾の歴史散策」や「中学生と地域の座談会」など様々な連携事業に新たに取り組みました。

公民館運営推進委員会との連携事業として 10 ページをご覧ください。堤ヶ岡公民館「親子リズム遊び&パパママリフレッシュタイム」は、運営推進委員の地域課題についてのグループワークを出発点として子育て支援事業を行っています。後程、記載がありますが、こちらの事業では、Google フォームを活用した住民へのアンケート調査も行っております。

10 ページの公民館運営推進委員会への部会の設置については、久留馬公民館が引き続き地域おこし部会を設置し、事業を企画実施しております。

続きまして、生涯学習推進員との連携事業について、11 ページからをご覧ください。各館で多様な事業が行われておりますが、引き続き、地域の歴史を改めて知るための事業が多く行われました。また、11 ページの矢中公民館「親子でつくる災害食」、12 ページの豊岡公民館「大人向け防犯出前講座」のように防災・防犯に関する連携事業も行われております。

続きまして、地域づくり活動協議会との連携事業について 14 ページからをご覧ください。15 ページの寺尾公民館では「寺尾地域誌の作成」ということで、各町内からの聞き取りなどをして、地域誌の作成に向けて活動中で、来年度に冊子にして地域に配布する予定です。

20 ページからの関係団体との連携事業の中で、20 ページの城址公民館「マリコンコンサート」、六郷公民館の「にこにこママサロン手づくりクラフト体験」、21 ページの乗附公民館「いきいきサロン」「子育てサロン」、滝川公民館「滝川巡回いきいきサロン」のように地域のいきいきサロンや子育てサロンと連携した事業に取り組んでいます。

また、22 ページの堤ヶ岡公民館「親子リズム遊び&パパママリフレッシュタイム」にあるとおり、群馬地域のこども園や児童館で保護者アンケートを実施し、

その回答内容をもとに講座を企画しており、アンケートに Google フォームを活用しております。

22 ページの行政機関・関係課との連携事業の中で、矢中公民館「自衛隊から学ぶ「もしもに備える防災講座」と「自衛隊災害派遣写真展」では、自衛隊を講師にして防災講座と写真展を組み合わせで開催しました。

23 ページの公民館サークルとの連携事業は、前回の意見具申を受け、今年度から新たに追加させていただいた項目で、サークルに講師をしていただいた事業を中心に 24 館 43 講座の取り組みを掲載しております。

身近な生活課題や地域課題に重点をおいた事業について、26 ページをご覧ください。南公民館の「放課後講座「運動・あそび・プログラム体験」」は、小学生の放課後の居場所についての相談をきっかけに、放課後に小学校の体育館で継続的に公民館講座を始めました。29 ページの滝川公民館について、音楽に関する事業が多く掲載されておりますが、コロナ禍で地域や公民館の活動が制限される中、様々なジャンル、楽器の鑑賞型、体験型の音楽事業に重点的に取り組むことで、公民館に人が集い、交流する場を生み出してきたことが評価され、今年度の優良公民館文部科学大臣表彰を受賞しております。

続きましてボランティアの体験や養成に重点をおいた事業について、32 ページをご覧ください。下里見公民館「下里見チョイ to 助け隊」は講座ではございませんが、昨年度の課題研究での「地域との新たな関係づくり」についての研究から生まれたボランティアチームで、公民館事業のサポートなどで協力してもらっています。

続きまして、地域人材の発掘や育成に取り組んだ事業として 33 ページからをご覧ください。各館で積極的に地域人材を活用した事業を行っておりますが、33 ページの東公民館「かけっこの謎」では地域在住の元オリンピック選手を、34 ページの北部公民館「バイオリンデュオコンサート」、35 ページの下里見公民館「ミュージカル俳優と考える人権」などでは地元出身の音楽家を講師とした講座。また、各館で地域の飲食店の店主を講師とする等、各分野で活躍している地域人材にアプローチして、改めて地域人材として地域で活動してもらう取り組みが近年増えています。

36 ページの公民館サークルの立ち上げにつながった事業も、前回の意見具申を受け、今年度から新たに追加させていただいた項目で、公民館事業からサークルの立ち上げにつながった 7 館の事業を掲載しています。

続きまして、若年層の参加促進に重点をおいた事業について 39 ページからをご覧ください。南公民館「ハーブ・アロマ体験講座」や東公民館「カッコいいパパの身体づくり」、北公民館「館長と作ろうシフォンケーキ」をはじめ、開催内容や開催日、対象を工夫し、公民館になじみのない対象の参加を目指した講座を

行っております。

続いて 45 ページの動画配信やオンラインを活用した事業をご覧ください。東公民館「年忘れお楽しみ会」、北公民館「今年の大掃除はこれで OK」のように Zoom で自宅から参加できる講座や、下里見、久留馬、金古南足門公民館「うたと音楽の力」、乗附公民館「いきいきサロン」では施設間を Zoom でつなぐ事業を行っています。

45 ページからのスマートフォン等の技術習得を目的とした事業につきまして、冊子に記載はございませんが、今年度は国の補助金を活用し、各地区公民館で必ず 1 回はスマートフォンに関する講座を実施しており、例年より多くの事業が行われています。

事業の紹介は以上とさせていただきます、事業については、項目ごとに 57 ページまで記載されております。57 ページ以降は事業以外の公民館だよりや図書室、館内の工夫などが掲載されています。57 ページからの公民館だよりの工夫に記載があるとおり、各館が地域情報の掲載や読みやすい公民館だよりづくりに取り組んでいます。また、59 ページの金古南足門公民館のように図書ボランティアによる手書きのイラストを掲載し、親しみやすいたより作りに取り組んでいる館もあります。

学習情報の収集や館内の掲示、展示の工夫について 61 ページからをご覧ください。城東公民館のミニギャラリーや 62 ページの城山公民館のミニアートギャラリーのようにいくつかの館で館内に新たに展示スペースを設けました。また、榛名公民館や久留馬公民館のように実施した主催事業の報告を館内に掲示することにより、公民館事業への興味を持ってもらうような取り組みが行われています。また、金古南足門公民館では、主事が毎日来館者へ向けて、今日の一言をボードに書いて掲示しており、来館者から非常に好評を得ています。

その他、部屋の貸し出しについての工夫、気軽に集える場所となるための工夫、イメージ向上のための施設の工夫や備品の管理・活用についての工夫がそれぞれ掲載されております。

以上、今年度の取り組みについてご説明をさせていただきました。時間の都合上、一部のみをご説明させていただきましたが、各館におきまして、様々な工夫、取り組みがなされておりますので、ぜひ、後ほど他の項目についてもご覧いただきますようお願いいたします。以上で事業実績の説明を終わらせていただきます。

会長： 事務局より説明がありました。この件についてご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

学識経験者 B： 69 ページの西部公民館の「スリッパの持参をお願いしている」とい

うのはどういうことでしょうか。

事務局： コロナ禍を経て、スリッパの共用等に対して拒否感がある利用者も増えましたので、スリッパをそれぞれで持参しているという工夫についてのことです。

学識経験者 B： ありがとうございます。

家庭教育関係者 A： 意見ではなく、感想です。毎年事業報告について、すばらしいなと感激しております。意見具申を受けて、報告いただく項目が増えて、じっくり読みたいなと思いました。この資料は公民館長さん、主事さんにとっても大事な資料となりますし、高崎市だけではもったいないなと思いました。少し写真などをつけたら公民館のガイドブックのような、全国の公民館に対しての地域づくりの事例集になるのではないかと感じました。また、公民館同士の講師情報、例えばこの公民館ではこんな講師に依頼しているといったような一覧があるともう少し良いと思いました。

一年間のすばらしい実績だと思いました。ありがとうございます。

会長： ありがとうございます。

事務局： ただいまの話について、補足で説明させていただきます。講座の実施にあたっては、公民館では事前に中央公民館長までの確認、決裁を受けることになっております。その際に講師等も全て把握できますので、それをひとつのエクセルシートに入力をし、一覧表を作成しております。主事が新たに講座を考える時に講師を探すことができるような体制を整えています。

会長： 多岐にわたる事業ですので、後ほどじっくりお読みいただければと思います。それでは事業実績の説明は以上となります。

2 令和3・4年度意見具申への取り組み状況について

会長： 続いて、令和3・4年度意見具申への取り組み状況について事務局より説明をお願いします。

事務局： 令和3・4年度意見具申への取り組み状況について、ご報告させていただきます。昨年3月29日に意見具申をいただいてから約1年間が経過いたしました。意見具申のむすびに「これらの提案について検討され、実施の見通しについては、

令和6年3月の審議会までにご回答くださるよう要請します」としていただき、本日、取り組みの現状と見通しについてご報告させていただきます。

資料は「令和3・4年度意見具申への取り組み状況の現状と見通しについて」というホチキス留めの資料となります。こちらの資料3ページ以降については、いただいた意見具申の内容を確認できるように、意見具申を表にしてまとめています。いただいた意見具申が全部で6項目に分かれておりましたので、その項目ごとに現状と見通しについて記載させていただきます。

最初に「1 コロナ時代(With コロナ、After コロナ)の公民館活動を模索する」についてですが、ITを活用した取り組みとして、今年度から中央公民館で講座動画の作成に取り組んでおり、現在作成中で、公開後、市ホームページでとりまとめたページを作成します。また、先ほどご説明した課題研究会でInstagramを活用した情報発信と地域人材の育成について研究しており、来年度は事業としての取り組みを目指し調整中です。また、堤ヶ岡公民館では子育て世代向けの住民アンケート、いくつかの館で講座受講者へのアンケートをGoogleフォームで試験的に実施しており、Googleフォームについては住民アンケートや受講者アンケートで活用できそうなことから、来年度以降より広い活用を図ります。

また、地域行事や育成会活動については、各館で地域行事の再開への支援や協力等に取り組んでおり、特に寺尾公民館では「上毛かるたをもう一度」講座を開催し、育成会の活動の活発化に寄与することができました。今後もコロナ禍で休止した行事や活動の再開や見直しに取り組んでいきます。

関連する事業実績の項目がありますが、先ほど説明した事業実績の中で、この提案に関連する項目を記載しておりますので、後ほどご確認ください。

続いて、「2 公民館における居場所づくりの実現を図る」ですが、各公民館で地域と協力し、体育やリクリエーションを通して交流を図る事業に取り組んでおり、コロナ後の再開も含め充実を図っています。また、城東、城山をはじめとしたいくつかの公民館では、期間が限られた文化祭の作品等を保管する目的もあり、常設の作品展示スペースを新たに設けました。東公民館の小学生向けの夏休み事業ではスタンプカード制を導入している取り組みもございます。ご提案いただいた来場ポイント制度や公民館の日、パブリックビューイングなどのアイデアについては、今後の公民館事業の中で取り入れる機会を模索していきます。

続いて「3 地域づくりを担う人材(ボランティア等)の育成を図る」ですが、公民館サークルとの連携や活用につきましては、公民館サークルと協力した事業の実施や講座講師としての活用、講座をサークル活動へとつなげていくことについては継続して取り組んでおりますが、今後もより積極的な連携、活用を図ります。

公民館事業企画立案への参加については、複数の館で中学、高校との連携した

事業を行っており、企画段階から連携できるよう取り組んでいます。中央公民館では、中学生が東公民館での事業を企画運営する講座を新規で実施しました。最初は不安だった中学生が、講座最終日には自信に満ちた表情をしていました。わが町の誇りを語る子どもの育成をはかる取り組みとして、いくつかの公民館では、地域資源を活用した小中学生の街めぐりや作文事業などに取り組んでおります。数年前から審議会の提案をきっかけに取り組み始めた六郷公民館や今年度は先ほど説明した寺尾公民館でも事業を実施しております。今後も各館の取り組みを情報共有し、地域資源を活用した子ども向け事業に取り組んでいきたいと考えております。

学生の協力による託児の実施について、学生の協力で子ども向け事業を実施している館はありますが、託児を行っている館はないため、今後、大学との連携方法も含めて可能性を模索できればと考えております。

続いて「4 公民館運営推進委員会活動の活性化を図る」ですが、住民が公民館を訪れる機会を増やす事業として、カフェ事業をはじめこれまで利用がなかった層を対象とした事業の実施に取り組んでいます。

現在、運営推進委員会に部会が設置されているのは久留馬公民館のみとなりますが、実際には運営推進委員会の委員さんと協力して取り組んでいる事業は多くあります。今後も各館の課題や新たな取り組みに対応する際に必要に応じて部会の活用を図れればと考えております。

地域住民の意見を反映させていくため、Google フォームでの住民アンケートの活用、また、堤ヶ岡公民館のように運営推進委員会内でグループワークを行うなどし、積極的な意見交換の場を設けることにより、より広い意見・要望を公民館活動に反映できるように取り組んでいきます。

続いて「5 公民館利用の利便性の向上を図る」ですが、各館で公民館だよりへの地域情報の掲載を行っており、今後も充実を図ります。

地域と連携し防災講座等を行っている館が複数あります。中央公民館では10年以上前から地域の防災リーダー育成のための連続講座を行っていき、それを受けて地域で防災講座が行われるということもございます。今後も地域の防災力の向上について継続的に取り組んでいきます。

各館で小学校や学童クラブとの連携を図っていますが、コロナ禍では学校等との連携を中断した事業も多かったことから、改めて情報交換、連携を密にし、子どもが参加しやすい事業の充実を図ります。

続いて「6 公民館職員の専門性の向上を図る」ですが、先ほど説明しました課題研究会では、実際の公民館活動につながる実践的な研修に取り組んでいます。住民との新たな協力関係の構築に寄与しており、今後もより多くの職員の参加を図ります。社会教育主事が現在13人配置されており、令和3年度に6人、令和4

年度に9人配置され、年々増加しています。令和4年度から社会教育主事講習に群馬県会場が新設されたことから、より多くの職員の主事講習への参加に取り組んでいます。こうした実践的、専門的な研修を通じて住民の社会教育活動を支援できる能力の向上を図れればと考えております。

意見具申でいただいた、旧来の社会教育主事有資格者の社会教育士の取得や教育センターをはじめとした他部署、他部署にいる公民館経験者と連携した研修等の実施については取り組めていない部分ですので、継続して可能性を模索します。

最後に、「7 公民館の新たな挑戦」ですが、住民が主体となった自主開設講座については、各館で利用者等からの提案を基とした事業を実施しており、また子育て世代等の協力者を募り、講座の企画、協力などを行っている館もあります。住民が主催事業を自主開催する手法については今後研究していきたいと考えております。

継続性のある学びの機会について、現在、多様なニーズへの対応や新規参加の促進等を図るため、少ない回数で様々な事業を行い、その後はサークルや地域の活動へつなげることを意識しています。通年の学級、講座を継続して実施している館もあることから、よりバランス良い事業が実施できるよう取り組んでいきます。

公民館4事業については、各館が地域の実状に応じながら偏りのない事業を実施していくために充分機能していると考えておりますので、今後必要に応じて見直しを検討していきたいと考えております。

以上、読み上げとなってしまいましたが、取り組みの現状と見通しについて説明をさせていただきました。新たに取り組めた部分もございしますが、取り組むことができていない、また、これからの課題となる提案も多くございます。そうしたことから引き続きこちらの答申への取り組みを継続してまいりますので、審議会の委員の皆さまには引き続きご指導、ご助言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

会長： 事務局より説明がありました。この件についてご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

学識経験者 B： 令和3・4年度の意見具申に関わった者として、お礼を言いたいと思います。意見具申は審議会委員の皆さんに原稿を出していただいて作成したものですので、言ってみれば審議会委員全員が関わって、専門委員会がまとめたものです。それを公民館活動に生かしていただいているということについて、感謝申し上げます。ありがとうございます。以上です。

会長： ありがとうございます。

公募委員 A： 「3 地域づくりを担う人材（ボランティア等）の育成を図る」の中で、「学生の協力で子どもを対象とした事業を実施している館はありますが、託児を行っている館はないため、今後、大学との連携方法も含めて可能性を模索できればと考えます」とあります。学生が地域人材として講師を務めたりすることは良いと思いますが、託児となると、小さい子供でまだお母さんの手から離れない、歩き始めた子ども、あるいはまだ歩けない子どももいると思います。そうすると免許を持っていない大学生であると何か起きた時、事故が起こった時に大変かなと思いますので、できれば託児の場合には、地域人材の中で保育士経験があるとか免許をもっているなどの人を活用していただきたいなと思いました。

事務局： 過去に地域で保育士の資格を持っている人に他の地域での託児をお願いするといった、公民館同士の情報交換の中で実施していた事例はあります。お子さんを預かることなので安全性がきちんと確保できる形で実施できる方向を模索できればと考えております。

会長： 他にございますか。

公募委員 B： 「5 公民館利用の利便性の向上を図る」の項目で質問させていただきます。この内容は公民館事業に参加するための利便性を図るということでしょうか。

この内容を見ると、主催事業に参加しやすい環境を図るというふうに読み取れるのですが、先ほど Google フォームでの講座申し込みの話がありましたが、主催講座に対して 24 時間いつでも申し込みができるなど、そういった方向も考えられるのかなと思います。どうでしょうか。

事務局： この説明については、あくまでも令和 3・4 年度の意見具申で提案いただいたものに対する取組状況ということですので、今、委員さんのおっしゃられたようなことはございませんが、以前もインターネットでの利用申請等ができないかとのお声もいただいており、検討はしましたが、なかなかシステマ的にも実施することが難しい状況ではあります。Google フォームにつきましては、現状では市の情報セキュリティを管理する部署に確認したところ、個人情報を入力するような利用は控えてほしいとのことでした。無記名のアンケートなどについては利用を始めましたので、今後も管轄する部署と調整しながら利便性の向上を図っていきたいと考えています。

会長： では、意見具申の取り組み状況については以上としたいと思います。

3 アンケート調査の結果について

会長： 続いて、アンケート調査の結果について事務局より説明をお願いします。

事務局： アンケート調査の結果についてご説明させていただきます。資料は「コロナ禍における公民館の取組状況の変化に関する調査票（まとめ）」という冊子形式の資料をご覧ください。

前回の審議会で経過をご説明させていただきましたが、2月22日を締め切りとして各公民館へアンケート調査を実施しまして、その結果をまとめさせていただいた冊子となっております。資料は各公民館から提出された回答を質問項目ごとに並べたものとなります。

まず1ページからが、(1) コロナ禍により中止さざるを得なかった事業、計画していたが実施できなかった事業の一覧で、全部で176事業あります。続いて29ページから、コロナ禍を契機に新たに始めた事業やコロナ禍に対応するために工夫した事業で、こちらは51事業ございます。41ページからがコロナ禍の経験をとおして公民館事業を企画・実施する中で、特に重視したい点となります。44ページから、各公民館の定期利用団体数の変化となります。52ページからがコロナ禍で定期利用団体の課題として見えてきたこととなります。54ページから、定期利用団体について、コロナ禍を経験したからこそ生まれた良い変化についての記載です。56ページから、コロナ禍で減少した利用者が戻りつつある中で、見えてきた課題や良い変化についてです。59ページからがコロナ禍だからこそ感じられた公民館の役割となります。最後に61ページから、コロナ禍で感じたことや気づきについての記載となります。

本日はアンケート調査の結果について質問項目ごとにそのまままとめたものとなります。説明は以上となります。

会長： 事務局より説明がありました。本日、まずはアンケートの回答一覧を委員の皆さまにお配りさせていただきました。分量も多いため、後程、目を通していただくようお願いいたします。来年度は、このアンケート結果に基づき、提言を作成していきたいと考えておりますので、皆さまよろしくようお願いいたします。

現時点で、アンケート結果についてご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

特に質問等なければ次の議題に移りたいと思います。

4 専門委員会の設置について

会長： 続いて、専門委員会の設置について事務局より説明をお願いいたします。

事務局： 専門委員会の設置についてご説明させていただきます。前回の審議会の議題にございましたとおり、専門員会を設置してアンケート結果の精査や提言の作成に向けて取り組んでいくということで、専門委員を募らせていただきました。その後、連絡をいただいた方、また会長、副会長でご調整いただきまして、お配りした名簿の備考欄にございますとおり、7名の委員さんに専門委員を務めていただくこととなりました。専門委員につきましては、令和6年度に3回、または4回程度の専門委員会の実施を予定しております。その中でアンケート結果を基にした提言の作成に取り組んでいただきます。実際のスケジュールについては、今後、正副会長とご相談の上、ご案内をさせていただきますので、専門員の皆さまにおかれましてはご協力をお願いいたします。専門委員会の説明は以上となります。

会長： ただ今説明がありましたメンバーで専門委員会を設置して、アンケートの結果の精査や提言の作成に向けて取り組んでまいりますので、ご協力をお願いいたします。

この件についてご意見、ご質問等ございましたらお願いいたします。

なお、7名の専門委員ということでしたが、今回の提言はアンケート調査を基に作成していく方針です。若干7名ではございますが、皆さまのご協力を得て取り組んでいきたいと考えておりますので、それに応じた専門委員にしていきたいと思っております。

今後、さらに専門委員としてご協力いただける方がいらっしゃいましたら、事務局までお申し出いただければと思います。

ご意見、ご質問等ないようですので、それでは本日の議事は終了となります。ありがとうございました。

5 報告・連絡事項

事務局： 新年度における団体推薦委員の役員等変更に伴う委員の推薦について

6 閉会

事務局： それでは以上をもちまして、第4回高崎市公民館運営審議会を閉会させていただきます。皆さまお疲れさまでした。